

議会運営委員会行政視察報告

今回、愛知県西尾市議会と安城市議会に、議場放送収録システムの導入・活用について、二か所の議場を研修視察した。

西尾市議会は、旧システムを平成20年より使用していたため機器更改の必要があり改修して議場放送システムの導入をした。システム導入により最も効果があったのは、放送業務を自前で出来、ライブ配信が可能となった点である。システムの中で一番注目したのは、音声文字化システムで、特に傍聴者にとっては大変に有効と思われる。議会DXのメリットとしては、全議員にタブレットを配布したことで、オンライン会議が可能となり、ズームによる会議参加の環境を整備することができた。デメリットとしては、データをサイトにアップロードする手間があることと、タブレット端末やペーパーレス会議システムにかかる費用が高額であること。また、議場システムとタブレット端末の互換性が無いことから、活用事例が無い。以上のことより、西尾市ではシステム導入によってペーパーレス化をより進めることは無く、あくまでも議会運営の利便性を求めるのだという説明だった。

安城市議会は議員全員にタブレットを持たせ、議場にモニターを設置しただけなので、用した費用は400万弱で、西尾市の6千万に比較するとかなり少ない。安城市はタブレットのアプリを使って議員が会議に必要な資料を管理したりして駆使している。何故なら、タブレットの使い方の講習会を集中して30回近く行って、多くの議員が使いこなしているのだ。

注目すべきは、西尾市と安城市の電子採決の違いだ。西尾市では、電子採決システムがあるにも拘わらず、実際は起立採決をしている。一方、安城市は採決アプリを使ってワンタッチの採決をしている。

そして、双方共に予算書と決算書は膨大なページ数のため、依然としてペーパーを使っているのだ。

所感

どちらが良くて、どちらが悪いということではなく、議会によって自ずと使い方や方向性が決まる。我々も導入にあたり、何に重点を置くか深く議論をし、方向性を決めておくことが重要だと思う。

二つの違った方向性を持って使用している議会を実際に視察で研修したことは大いに参考になったと思う。

2024年1月17日

入杉 百合子